

一般選抜 前期 C

# 試験問題

# 国語

## 【注意事項】

- 一、試験開始の合図があるまで、この表紙を表にして、この試験問題冊子を開かないでください。
- 二、試験問題冊子は、七ページ（この表紙は含めません）あります。
- 三、試験終了後、解答用紙は、すべて回収しますので持ち帰らないでください。
- 四、試験終了後、この試験問題冊子は、持ち帰ることができます。
- 五、問題の内容に関する質問にはお答えできません。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヨーロッパでさまざまな教会や、**a** 宮殿などの名所、あるいは特に美術館を訪れて、そこに飾られている絵画を前にした時、しばしば強く感じるのは、これらの作品がそれぞれ何かある物語りを語っている、あるいは少なくとも何らかのメッセージを発しているという印象でしょう。実際、近代になって風景画や静物画が独立したジャンルとして成立する以前には、西欧では絵画は基本的に何らかの物語りと結びついていて、その中身を人々に語り伝えるためというものでした。つまり絵画作品は、単に「**b** 眺める」ものではなく、ちょうど書物のように「読む」ものだったのです。多くの壁画や浮彫りに飾られた中世の聖堂が「字の読めない人のための聖書」と言われたのも、まさにそのためにほかなりません。（ア）、西欧の絵画作品を前にした時には、われわれはまずそこに表現されている物語を「読み解く」ことが、どうしても必要になります。そして、西欧絵画史を彩るさまざまな物語りのなかで、ギリシャ・ローマ神話と並んで最も大きな場を占めているのが、聖書の世界に由来する物語り群です。

その内容は『旧約聖書』の時代と、『新約聖書』以降の時代に大きく分けることができます。『旧約聖書』は、神による世界の創造から人間の創造、原罪、楽園追放を経て預言者モーセの活躍までを伝える「創世記」をはじめ、それ以降のイスラエルの民族の歴史を辿った史書と、**d** 幻想的な預言の書、詩篇などの文学書から成り立っていて、いずれも豊かな物語りの源泉となつていきます。それと同時に、これらの「(1) 正典」以外に、広く人々のあいだで語り継がれ、親しまれて来た「外典」と呼ばれる書物群があります。本書で取り上げた「ダニエル書」がその一例ですが、ほかにも、美貌を利用して敵将に近づき、その首をはねて民族の危機を救った**f** 勇敢な娘の物語を主題とした「ユードイット書」や、盲目の父親の代わりに**(2) 東奔西走**し、天使の助けを借りて父親の視力を回復させる孝行息子トビアスを主人公とした「トビト書」などがよく知られていました。

(イ) 『新約聖書』は、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四人の福音書記者によるイエスの生涯をはじめ、その後の使徒たちの事蹟、信仰を説くパウロの**h** 書簡、幻想性豊かな「ヨハネの黙示録」を集めたキリスト教の「正典」です。そのほかに、信仰に身を捧げた聖人たちの物語りがあります。特に、13世紀、イタリア北西部ジェノヴァの大司教ヤコブス・デ・ヴォラギネによって書かれた『黄金伝説』は、中世聖者伝の集大成とも言うべき書物で、画家たちにとって、重要な**(3) 典拠**となりました。

残された絵画のなかには、ある地域で特に強く崇敬された聖者の物語りや、さらにはある特定の事件、あるいは事情を反映した表現が見られることがあります。そのような作品を理解し、「読み解く」ためには、制作当時の歴史的背景を知る必要があります。

ひとつだけ例を挙げます。

東京上野の国立西洋美術館に、15世紀の画家ヤコポ・デル・セライオの描いた板絵の「磔刑像」があります。言うまでもなく、「磔刑」は、人類の罪を償うため十字架にかけられたイエスを描き出したものです。しかしこの作品の場合、通常の「磔刑」像とはいささか異なる表現が見られます。十字架上のイエスの背後に、その上に覆いかぶさるように両腕を**ひ**げた神の姿と翼をのばした鳩（聖霊）が描かれているのです。この特異な図像は、父なる神と神の子イエス、それに聖霊の三者は同一の神格の現れであるという「三位一体」の教理を示しています。（ウ）、十字架上の罪人イエスは、人間であると同時に「神」でもあることが**明瞭**に表現されているのです。

この十字架の足許には、いささか不気味な**髑髏**と白骨が描かれています。これは「磔刑」の十字架はアダムの墓の上に立てられたという言い伝えを表すもので、人類の祖アダムの犯した罪——「原罪」——が十字架上のイエスによって**償**われ、われわれは救われる、つまりイエスは人類の「救世主」となるというキリスト教の基本的思想を**図像化**しています。ちょうど、イエスの誕生を予告する「受胎告知」の画面に、アダムとエヴァ（イブ）の「楽園追放」の場面が描かれているのと同様の構成です。

（高階秀爾『ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」はなぜ傑作か？——聖書の物語と美術』による）  
／出題の都合上、一部中略した箇所がある）

問1 傍線部 a～j の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問2 空欄（ア）（イ）（ウ）を補う言葉の組み合わせとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 ア したがって イ そして ウ なぜなら
- 2 ア したがって イ 一方 ウ それによって
- 3 ア ところが イ しかし ウ それでもなお
- 4 ア ところが イ また ウ そういうわけで

問3 傍線部(1)「正典」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 正式な信仰の拠り所として、教会に認められた文書群
- 2 信者の中で、口伝によって何世代も継がれてきた物語群
- 3 宗教的に異端とされる、思想や人物に関する文書群
- 4 特定の地域や時代に限定された、儀式の記録文書群

問4 傍線部(2)「東奔西走」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 時間をかけてゆっくりと各地を巡るように心がけながら、計画的に目的を進めること
- 2 ある一方向を目指して移動し、目的を果たした後は再度同じ道をたどること
- 3 東から西にいたるまで、あらゆる地を巡ってくまなく情報や物資を集めること
- 4 あちこち忙しく駆け回り、多くの場所や人に接して目的を果たそうとすること

問5 傍線部(3)「典拠」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 ある言い伝えの起源となる神話上の人物や事件
- 2 制作にあたって根拠となる確かな資料や文献
- 3 人びとに信仰されている出来事をまとめた資料
- 4 制作のために参考とすべき細やかな手順書

問6 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 西欧の絵画作品は、写実的な技術の追求を通して宗教的メッセージを徐々に失っていったが、その過程を理解することこそが鑑賞の鍵だといえる。
- 2 聖書に基づいた絵画作品はすべて教会の命令によって制作され、画家には創作の自由が認められていなかったが、それでも名作が数多く生まれた。
- 3 中世までの西欧絵画は、宗教や神話に由来する物語性を重視しており、鑑賞者には絵画に込められた背景知識や展開を理解することが求められる。
- 4 西欧絵画では、背景となる物語や宗教的な意味の読み取りが求められるが、『旧約聖書』と『新約聖書』の違いも理解していない現代人には難解である。

【二】 次の(1)～(5)の各問いに答えなさい。

- (1) 次の四字熟語の空欄  に入る漢字二字を書きなさい。

清廉  (心が清らかで不正などがないこと)

- (2) 熟語の構成が他と異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 思考    2 森林    3 意向    4 基礎

- (3) 次の表現の傍線部は誤っている。正しい漢字二字を書きなさい。

その説明は口頭無稽である。

- (4) 「竜頭蛇尾」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 最初は勢いがよく活発に進むが、最後は弱くなること  
2 細かいことにこだわらず、大きな目標を常に見失わないこと  
3 初めから終わりまで変わらず、根気よく努力を続けること  
4 予想もしなかった結果に驚き、当初の勢いを失うこと

- (5) 森鷗外もりおうがいの作品を、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 破戒    2 高瀬舟    3 藪の中    4 伊豆の踊子いづのおどりこ

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

疑似科学に身を **a** ユダねれば考えるといふメン **b** ドウなことをしなくてよく、ただ信じておれば安心できるからいったん嵌るとなかなか立ち直るのが難しい。だから、まず疑似科学に引き込まれないよう心構えをしておく必要がある。以下は、疑似科学に嵌らないための私が考える処方箋である。

処方箋と言いながら、まずのつけから敗北宣言である。 **(1)** 疑似科学は、いつの世にあっても性懲りもなく生き長らえるだろう、と言わざるを得ないからだ。

人間には心のゆらぎがあり、非合理ではあってもそれを選びたい心理になってしまう。社会には非合理がゴロゴロあるのに、そう簡単には変わる気配がない。非合理を売り物にする哲学だってある。そもそも合理と非合理を分ける基準なんて存在するのだろうか。疑似科学を巧く操って商売とする人間は次々と巧妙な手口を考え出し、**A** には答えられない問題が沢山あって明確に答えてくれそうにない。科学と疑似科学の間にはグレーゾーンがあって見分けるのも困難である。何を頼りにすればいいのだろう。そんな時代なら、とにかく手取り早く答を出してくれる方を選ぶのに何が悪い、それが疑似科学だって構わないではないか、となってしまう。人間という生き物は、過去に何らかの悔恨を持ち、現在の閉塞感を重く感じ、未来が決定できないのだから、怪しげであっても癒しの気分で疑似科学に近づきたくなるものである。このような心の動きがある限り、疑似科学は永遠に廃れないと言えよう。

占い、超能力、疑似宗教などの第一種疑似科学に嵌る人は、一度信じてしまふとなかなか抜けきれないという特徴がある。麻薬が体に刷り込まれるように、疑似科学が心に刷り込まれて消すことができなくなるのだ。麻薬は物理的に(肉体を隔離すれば)脱することができが、疑似科学は心に刻み込まれているだけに **B** が困難である。たまたま偶然の符合によって疑似科学のご託宣が当たることもあり、それでいっそう深みに嵌っていく。他人の忠告を聞く耳を持たないのだ。

科学を売り物にする第二種疑似科学に夢中になる人は、一般に情報通なのだが、かえって情報に振り回されやすいという共通項がある。テレビや新聞や知人から良いと言われれば、つい手を出してしまうが長続きしない。次々と目移りしてしまうのだ。性懲りもなく同じ失敗を繰り返すのは、自分の中で疑似科学に嵌っているという意識が薄いためだろう。疑似科学を商売にする人間にとってはこれが付け目で、少し呼び名を変えたり、宣伝文句を手直ししたりして気を惹くことに努める。科学的根拠は飾り物にすぎないのに、これが実に効果的なのである。「科学らしさ」の装いが第二種疑似科学を延命させる重要な要素となっているのだ。

複雑系に関わる第三種疑似科学は、体制や世間の趨勢に反撥したくなる人が陥りやすい傾向がある。みんなが言うことに簡単に迎合せず、疑って文句をつけてみるという意味ではけなげな **C** の持ち主と言える。私は高く評価したいと思っている。しかし、そのような批判のみが主目的になってしまふと、本来あるべき姿を自分で探そうとしないという限界がある。「小言幸兵衛」ではないが、目につくあらゆることに気が食わず、批判することに喜びを見いだすのだが、自分の考えの古さや偏った常識を反省しようとしれないのだ。自分の物差しだけで世の中の寸法を測ろうとして、かえって自分が疑似科学化していることに気がつかないのである。(私もそうでないか気をつけねばならない。)

これら三種の疑似科学に共通することは、結局いずれも人間の心理(欲望と言えるかもしれない)に深く関係しており、人それぞれの性格や嗜好と切り離せないから、簡単に他人の手でフツ。シヨクできないという点である。また、社会の雰囲気によって知らず知らずのうちに刻印されてしまい、本人は無自覚であることも共通している。それ自身は社会学の興味ある対象となるのではないだろうか。

他方、科学と縁を切って暮らせなくなった現代において、科学を盲信する人、科学に反撥する人、科学に批判的な人、科学を疑う人、科学の裏をかこうとする人、科学のみに忠実であろうとする人などと、科学に対する反応も実にさまざまである。現代人は、好むと好まざるとにかかわらず、科学に対して何らかの態度表明が迫られていると言える。それはまた、それぞれの態度に適合する巧妙な疑似科学の考案につながっている。ターゲットを絞って狙い打ちするのである。だから、「世に盗人の種は尽きまじ」と同様、「世に疑似科学の種は尽きまじ」ということになってしまふのだ。そして、人間に **D** がある限り、「疑似科学に嵌る人の種は尽きまじ」になるのは当然と言えよう。

確かにそうなのだが、それでも多くの人々は疑似科学の虜にならずに済んでいるのも事実である。惹かれつつも、あくまでゲームであると自分に言い聞かせ、深入りせずになんとか踏みとどまっている。直感的に何らかの胡散臭さや危うさを感じて敬遠するか、すぐに忘れるように努めるか、しているのである。その意味では健全であると言える。

あえて処方箋を書くとしたら、懐疑する精神を、いかに育て、いかに保つかにあるだろう。それには、幼い頃からの教育しかないと思われる。「三つ子の魂百まで」という言葉があるように、小さい頃に叩き込まれた懐疑精神は忘れないものだ。「正義を守る」とか「正直であれ」というような道徳律は生まれながらに持っており、教育によってさらに鍛えてゆくもの

であるのに対し、「直感的に何らかの胡散臭さや危うさを感じる心」は、教育によって自覚させ **X** に育成しなければならぬ。人間は合理性を自然のうちに学ぶのだが、非合理性は **E** と向き合うことによるのみ体得できるからだ。

だから、小中学の教育の **d** ガンモクの一つは、「懐疑する心」を養うことだろう。「疑う」ことをまず推奨するのは、合理と非合理が共に存在することを認識させるためである。「疑う」中で、合理的な形態や仕組みについて学び納得するとともに、非合理的なものもわんさとあることを知ることができる。合理的精神とは、不合理を発見して忌避する心のことでもあるのではないだろうか。<sup>(2)</sup> それは「疑う」ことからしか芽生えないのである。

もつとも、今の子どもたちはテレビやゲーム遊びが中心となってしまうから、疑問を持ったり質問したりする癖を失っている。与えられた情報をいかに使いこなすかが関心事になっているからだ。「疑う」のはかったるい、そのまま信じる方が楽なのに、と思う習性が身についている。そのような場合には、「疑う技術」を教えねばならない。「疑う」方が世界が広がり、もっと面白いことが隠れていることを実感させれば、子どもたちは「疑う」ことに夢中になると請け合える。

「疑う技術」を教えるためには、大人が子どもを挑発する必要がある。次々と質問を発してアレコレ考える楽しさを味合わせるのだ。それによって子どもたちはいかに多くの不思議に取り囲まれているかがわかってくる。周囲の大人が「疑う心」を持っておれば、子どもも自然に同調するものなのだ。

むろん、世の中がエン **e** カツに回るためには、共通に定められたルールを「信じる」ということが欠かせないのは事実である。ルールそのものを信じ、みんながルールを守ることを信じ、ルール違反には罰則が科せられることを信じる、それがあって始めて社会生活が営めるからだ。しかし、私はその <sup>(3)</sup> ルールさえいったん疑い、納得の上で信じるというふうに変わるべきだと思っている。ルールは神懸<sup>が</sup>り的に上から与えられるものではなく、社会を構成する人間が一致して決めるべきものであるという観念を養う必要がある。選挙の際の戸別訪問禁止などのような草の根民主主義の芽を摘み取るおかしなルールもあるし、民営化ばやりで規制が緩和されるように時代とともに変化するルールもある。ルールを決める主体者は自分であるという意識を養うためにも、まずルールを疑うことは大切なことなのだ。

(池内了『疑似科学入門』による)

問1 傍線部 **a** **s** **e** のカタカナにあたる漢字を含むものを、各群のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を記しなさい。

a ヌダね

- 1 自宅のイマでくつろぐ。
- 2 病院でイシャにみてもらう。
- 3 古代のイセキが見つかった。
- 4 薬物イソソについて学ぶ。
- 5 学校のイインカイ活動に参加する。

b メンドウ

- 1 食事でトウシツを摂取する。
- 2 インターネットサイトにトウコウする。
- 3 熊がトウミンする。
- 4 会社がトウサンする。
- 5 師匠の技術にトウスイする。

c フツシヨク

- 1 ショクタク社員として働く。
- 2 汚れを完全にシヨクジョウする。
- 3 山に新たにシヨクリンを行った。
- 4 動物のセイシヨク活動を調べる。
- 5 化学反応にシヨクバイを加えた。

d ガンモク

- 1 この地域はガンバンが固い。
- 2 複数の問題をホウガンする。
- 3 動物のガンキユウを研究する。
- 4 ガンコな汚れを目にする。
- 5 タイガンにいる友に手を振る。

e エンカツ

- 1 山で雪に足を取られてカツラクした。
- 2 財産は兄弟でブンカツされた。
- 3 学期末に学習の成果をソウカツする。
- 4 全国大会への出場をカツボウする。
- 5 税金については税務署のカンカツだ。

問2 傍線部(1)「疑似科学は、いつの世にあっても性懲りもなく生き長らえるだろう」とあるが、このように述べられる理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 疑似科学は歴史的に多くの社会で支持を得ており、社会構造や権力体制の保全に利用されてきたから。
- 2 疑似科学は科学を装うことで一時的な信頼を得て人々の生活に入り込んでおり、取りはらうのは難しいから。
- 3 疑似科学は人間の根源的な欲望や心理的な安心感と結びつき、社会状況が変わっても消えにくいから。
- 4 疑似科学は科学と宗教の間に位置し、その曖昧さゆえにどちらの類型にも属さない独自の存在だから。
- 5 疑似科学は現代科学の限界を突く新たな知見を提供し続けており、それを求める人は必ず存在するから。

問3 空欄 A を補う言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つずつ選び、その番号を記しなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけない。)

- 1 欲望
- 2 科学
- 3 矛盾
- 4 治療
- 5 才能
- 6 精神

問4 空欄 X を補う言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 合理的
- 2 潜在的
- 3 自発的
- 4 逆説的
- 5 意識的

問5 傍線部(2)「それは『疑う』ことからしか芽生えないのである。」とあるが、この説明としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 何らかの胡散臭さや危うさを察知するための能力は、懐疑することによって身につけられるため、「懐疑する心」を育む教育を行う必要がある。
- 2 合理性と不合理性はその獲得の過程にちがいがあがあるが、「疑う」という行為のなかで、人は合理と非合理をともに認識することが可能である。
- 3 疑似科学に嵌らずに済んでいる人は、直感的に何らかの胡散臭さや危うさを感じており、この感性は教育によって自覚させるものである。
- 4 疑似科学に嵌らないためには「疑う」ことが避けられないが、今の子どもたちは疑問を持つ癖を失っているため、教育の施しようがない。
- 5 「疑う」という行為から、不合理を見つけ避けようとする気持ちを抱くことが、合理的な精神を養うことにつながると考えられる。

問6 傍線部(3)「ルールさえいったん疑い、納得の上で信じる」とあるが、この考え方を反映した教育方針としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 与えられた社会規範の妥当性を自分自身の判断で評価する姿勢を養う。
- 2 現実社会では矛盾のあるルールも存在することを前提に、受け入れる姿勢を説く。
- 3 信頼すべき権威に従うことこそが民主主義にとって最も重要だと教える。
- 4 社会のルールは絶対的なものではなく、変化するものとして扱う意識を育てる。
- 5 市民が主体的にルールづくりに関わることの重要性を自覚させる。

問7 Fさんは本文を読んで、自分の考えを整理するために次のような「メモ」を作成した。これについて後の i、ii の問いに答えなさい。

〔メモ〕

- ① 疑似科学に人が惹かれる理由 ←
- ② 科学と疑似科学の境界の曖昧さ、現代社会における科学の多様な受け止め方 ←
- ③ 筆者は、疑似科学に引き込まれないためには 甲 と考えている ←
- ④ そのために必要なのは 乙 である

i 空欄 甲 を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 科学を信じすぎず、常に疑ってかかることで、社会から孤立する態度を育てること
- 2 合理的な科学精神を完全に普及させることは不可能であるという現実を受け入れること
- 3 非合理的なものが存在する前提で、物事を疑う態度を育て、疑似科学と距離を取れるようにすること
- 4 科学的根拠のあるものだけを信じ、非科学的な考えを一切排除する習慣を幼少期から身につけること

ii 空欄 乙 を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 幼い頃から「疑う」ことに親しませ、日常の中で疑問を持ち、自分で考える力を育む教育
- 2 情報社会に適応するための記憶力と応用力を高める訓練を中心とした、詰め込み型の教育
- 3 科学的知識を体系的に覚えさせることで、「疑う」際に事実と照合しやすくするための教育
- 4 科学の正しさや権威を教えることで、子どもが疑似科学に近づかないようにする管理型の教育

問8 次は本文を読んだ五人の生徒が語り合ったものである。本文の内容と合致しない意見を一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 Aさん——科学との見分けがつきにくい疑似科学は、人間の心のゆらぎや「手っ取り早く答にたどり着きたい」という心理によって受け入れられてきたものなんだね。
- 2 Bさん——筆者は疑似科学を類型に分けた上でその性質を述べていたけれど、第三種疑似科学は「疑って文句をつけてみる」という点で正しい科学の在り方だといえるね。
- 3 Cさん——どの類型にも人間の心理が関係しているという共通点があるから、疑似科学を忌避するためには人間の科学への態度の取り方が重要になってくるようだよ。
- 4 Dさん——筆者は「懐疑する精神」について言及し、疑似科学に嵌らないようにするための処方箋として「疑う」ことの大切さを説いていたね。
- 5 Eさん——そうだね。そして、「懐疑する精神」の浸透のためには「疑う技術」に関する教育を行い、ときには既存のルールさえ疑うことが必要になると考えているんだね。

設問は以上です。